

福井県越前町立宮崎中学校で「ネット依存防止ワークショップ」を開催

～多様性の認知と尊重を通じて、セルフコントロールの在り方を学ぶ～

総務省北陸総合通信局（局長 山田 和晴）は、平成31年3月15日（金）、福井県越前町立宮崎中学校において、越前町教育委員会、学校法人福井仁愛学園 仁愛大学、一般社団法人日本情報モラル推進機構とともに、同校中学生（48人）による「ネット依存防止ワークショップ」を「春のあんしんネット・新学期一斉行動」の一環として開催しました。

最初に、講師の一般社団法人日本情報モラル推進機構 理事長 竹村 順吾氏が「ネット依存に関する課題」と題し、ネット依存の定義や依存における問題点等について講演を行いました。

続いて、仁愛大学の学生ファシリテータが中心となりグループディスカッションを行い「大人を見て依存だと思うこと」、「どこまでいったら依存?」、「友達がそうなったら何て声をかける?」といったテーマに対し意見を出し合い、その結果をまとめてグループごとに発表を行いました。



グループディスカッションの様子

最後に、コーディネーターの仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科 講師 安彦 智史氏が、生徒の皆さんに伝えたいこととして、「自分が依存していると気付くことは難しいので、周りの友達がネット依存になった時は声をかけられるようになってほしい。自律してネットを利用し、友達も自律できるよう手助けをしてあげてほしい。」とのメッセージがあり、「ネット依存防止ワークショップ」を締めくくりました。

参加した中学生からは、「生徒間で色々な意見を聞くことができて良かった。ワークショップをきっかけに、自分の時間の使い方を見直すことができた。友達がネット依存になったら声をかけたい。」との感想が出されました。



（一社）日本情報モラル推進機構 理事長 竹村 順吾氏



仁愛大学 講師 安彦 智史氏